

第5回 四大学連合文化講演会

東京医科歯科大学・東京外国語大学・東京工業大学・一橋大学

環境・社会・人間における「安全・安心」を探る ＝安全で安心の出来る社会＝

～学術研究の最前線をやさしく解説する～

2010年10月8日(金) 13:00～16:30

- 場 所: 一橋記念講堂(東京都千代田区一ツ橋2-1-2)
- 主 催: 四大学連合
(東京医科歯科大学・東京外国語大学・東京工業大学・一橋大学)
- 共 催: 日本経済新聞社
- 企 画: 四大学連合附置研究所
- 後 援: お茶の水会, 東京外語会, 蔵前工業会, 如水会
- 定 員: 500名(入場無料)

お申込・お問合せ先

東京外国語大学研究協力課共同研究拠点係
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
TEL 042-330-5600 FAX 042-330-5610
E-MAIL yondai@tufs.ac.jp URL <http://www.aa.tufs.ac.jp/~yondai/>

プログラム

12:20	開場
13:00-13:10	開会の辞 東京外国語大学 学長
13:10-13:20	来賓のご挨拶 文部科学省
13:20-14:00	「地球環境と原子力 一基盤研究から身近な環境技術開発へ」 東京工業大学原子炉工学研究所長 有富正憲
14:00-14:40	「成長なければ安心なのか?」 一橋大学経済研究所 教授 浅子和美
14:40-15:00	休憩
15:00-15:40	「国境の安定がもたらす人間の「安全・安心」:中国・ベトナム国境を事例に」 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所長 栗原浩英
15:40-16:20	「神経変性概念のパラダイムシフトと治療戦略」 東京医科歯科大学難治疾患研究所神経病理学分野 教授 岡澤均
16:20-16:30	閉会の辞 東京医科歯科大学 学長

参加ご希望の方は、インターネット又は葉書・FAXにて郵便番号・住所・氏名・年齢・所属先・電話・メールアドレス等を明記し、2010年9月24日(金)必着(先着順)で、上記宛先までお申し込み下さい。

● 講演者紹介 ●



東京工業大学
原子炉工学研究所長
有富 正憲
(ありとみ まさのり)

URL: <http://www.nr.titech.ac.jp/~maritomi>

1947年生まれ。1977年東京工業大学大学院理工学研究科原子核工学専攻博士課程修了。東京工業大学原子炉工学研究所の助手、助教授を経て1997年に教授、2007年より同研究所長。専門は、原子力熱流体工学、原子力安全工学、気液二相流動力学、核燃料輸送工学、使用済燃料管理工学等。将来型軽水炉の開発基礎研究を実施、並びに、核燃料物質の安全輸送と使用済燃料中間貯蔵技術の学会標準策定、更に、原子力基盤研究の成果に基づく環境関連技術開発に従事。日本混相流学会会長、日本原子力学会理事、日本機械学会評議員、日本伝熱学会監事。



東京外国語大学
アジア・アフリカ言語文化研究所長
栗原 浩英
(くりはら ひろひで)

<http://www.aa.tufs.ac.jp/~hkuri/camp/>

1957年生まれ。1987年東京大学大学院総合文化研究科(国際関係論)博士課程中退。博士(学術)。東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助手、助教授を経て、2004年より教授、2009年より所長。専攻はベトナム現代史。最近では、主として1950年代以降のベトナムと中国・ソ連(ロシア)の関係について、文献資料調査とフィールドワークに基づいた研究を行っている。ベトナムの経験を通じて、日本が中国といかに向き合うべきか探究している。



一橋大学経済研究所 教授
浅子 和美
(あさこ かずみ)

<http://www.ier.hit-u.ac.jp/Japanese/faculty/asako.html>

1951年生まれ。東京大学経済学部卒業後Yale大学大学院経済学研究科卒業(Ph.D. in Economics)。筑波大学社会学系講師、横浜国立大学経済学部助教授、同教授を経て、1995年より一橋大学経済研究所教授(システム解析研究部門)。この間、日本銀行金融研究所、大蔵省財政金融研究所、経済企画庁経済研究所、海外経済協力基金開発援助研究所、日本政策投資銀行設備投資研究所で客員研究員を務める。他に世田谷市民大学運営委員、中国廈門大学兼職教授、東北師範大学客座教授。専門はマクロ経済学理論、日本経済の実証分析。



東京医科歯科大学 難治疾患研究所
神経病理学分野 教授
岡澤 均
(おかざわ ひとし)

<http://www.tmd.ac.jp/mri/npat/index.html>

1959年生まれ。東京大学医学部卒業。医学博士。東京大学助手、東京都神経科学総合研究所部門長を経て、2003年より現職。専門は、神経内科学・脳科学。日本神経学会専門医・指導医。ES細胞の最重要制御因子でありiPS細胞作成の必須因子であるOct-3/4の発見者である。東京大学神経内科において脳疾患研究を始め、精神発達遅滞・小頭症の新たな原因遺伝子PQBP1を発見した。また、神経変性の新しい分子メカニズムを解明した。科学技術振興機構さきがけ、CRESTの研究者、新学術領域研究「シナプス・サーキットバロロジーの創成」の領域代表者、日本神経学会、日本神経科学学会、日本神経化学会、日本ケミカルバイオロジー学会などの役員、科学研究費専門委員、国際総合学術誌PLOS ONEのエディターも務める。